

Tokyo FA News



巻頭特別企画

国スポ少年男子優勝記念対談 太田匡人監督×岩永雄太ヘッドコーチインタビュー 「個を束ね、勝ち切る。 12年ぶり王座の舞台裏」

TOKYO FA's Pick Up

マッチ・ウェルフェアオフィサー

GAME REPORT

第23回アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権
アンブティサッカーインターナショナルチャレンジカップ -東京2026

SPECIAL INTERVIEW

FIFAフットサル女子ワールドカップ@フィリピン 山本真理フットサル国際審判員
第104回全国高等学校サッカー選手権大会 大会優秀選手 三嶋奏太キャプテン(堀越高校)
JFA全日本U-18フットサル選手権大会3連覇 行木詩心優選手(フウガドルすみだファルコンズ)

REPORT

いくせいカップ第20回東京都キッズ (U-6) サッカー大会

「サッカーライフ」

武蔵野大学サッカー部監督 諸岡良徳さん

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田(和田長浜海岸側)
2021年4月
取得名義:株式会社スカイ・ランド
(日本水資源開発株式会社関連会社)

人を潤し自然を守る

ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒142-0063 東京都品川区荏原3丁目2番6号
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661

サッカーでの安心・安全、そして子どもたちの笑顔を守る
それはサッカーファミリー全員の役割であり責務

ウェルフェアオフィサー

日本サッカー協会とJリーグは、2008年度からサッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、リスペクトプロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、フェアプレーの原点として全力でプレーすることを重視し、仲間や対戦相手、審判、指導者、施設、サポーターなど、サッカーに関わるすべての人々を尊重し大切に思うことを目指しています。

サッカーを楽しむサッカーファミリーの安心・安全を守り、より快適なサッカー環境を構築する役割を担うウェルフェアオフィサーについて紹介します。

ウェルフェアオフィサーの役割には、リスペクトやフェアプレーを啓発、促進し、暴力、差別等の予防活動を通じて、問題を未然に防ぐ、また、顕在化した諸問題に対応、問題解決を図ると共に、問題の内容や重大さによって司法機関や諸関連組織への橋渡しとしての役割を担っています。

今号では、「マッチ・ウェルフェアオフィサー (MWO)」を紹介します。



「マッチ・ウェルフェアオフィサー (MWO)」とは

競技会においてリスペクト・フェアプレーを推進する責任者

認定

競技会を主催するサッカー協会の開催する認定講習会を受講し、その役割を果たせると判断された場合に認定

役割

- ・競技会会場におけるリスペクト精神、フェアプレーの啓発、促進及び暴力、差別等予防活動とリスペクト、フェアプレーに係る教育活動
 - ・上記活動のため、競技会において研修会、講習会の実施
 - ・競技会会場における暴力、差別等に関する相談窓口対応及び暴力、差別事案の対応及び児童の安全保護に関する事案の対応
 - ・競技会のリスペクト、フェアプレーに関して、技術委員会、審判委員会、リスペクトフェアプレー委員会、他のウェルフェアオフィサー等との連携及びリスペクト、フェアプレーに関して、外部団体との連携
- 参照 JFA「ウェルフェアオフィサー設置要項」

具体的な活動内容

試合や大会での安心・安全を見守る役割です。取り締まるのではなく、サッカーファミリーの一員として共感を大切に関わります。試合前に監督や審判へ挨拶し、本部付近で全体の雰囲気を見守ります。安心・安全が保たれているか、選手が主体的に楽しめているかを確認し、良い点も含めた気づきを試合後に伝え、より良い環境づくりにつなげます。

各連盟・委員会のMWO活動紹介

高体連サッカー専門部 設置日：11月8日(土)、9日(日)、16日(日)

競技会名：全国高校サッカー選手権東京予選準決勝・決勝の3試合

代表者ミーティングにはMWOも同席し、設置の目的や役割をあらためて共有しました。試合中は両ベンチの間に着席し、ピッチ内外の様子を見守ります。高体連では約10年前からウェルフェアオフィサーの活動が始まり、MWOも4～5年前より設置されていることから、指導者の理解も浸透している様子がうかがえました。試合後は笑顔と感謝を大切に気づきを伝えています。指摘が多くなりがちな世代だからこそ、前向きな声掛けを広げ、選手たちが将来の大人のサッカーへとつながる健全な成長環境づくりを後押ししています。



担架要員との間で試合を観察

少年連盟 設置日：11月8日(土)、9日(日)

競技会名：JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会東京都中央大会4・5回戦、準々決勝

本大会では、事前の監督会議でMWO設置の目的と役割を周知しました。当日は3名のMWOが配置され、試合の割り振りやチェックリスト、試合前後の手順を確認し、共通認識を持って活動に臨みました。用具チェック時には指導者・審判へ丁寧に挨拶し、試合中は両ベンチの間で見守りながら記録。終了後は両チームへ気づきを伝え、握手で締めくくりました。試合中、指導者が反則の可能性を理由とともに選手へ丁寧に説明する場面もあり、その前向きな指導をポジティブな取り組みとしてMWOがチームへ共有しました。



試合前に共通認識を確認

フットサル委員会 設置日：12月20日(土)、21日(日)

競技会名：Brilliaカップ第9回東京都少年フットサルフェスティバルU-11

フットサル委員会では、本イベントで初めてMWOを設置しました。担当者には当初緊張も見られましたが、活動が始まるとU-11年代のフェスティバルであることを踏まえ、また判定など技術的な内容には立ち入らず、両チームを公平・中立に見守る姿勢を徹底しました。指導者への伝達については「人に伝える難しさを感じた。言葉を選び、相手を尊重し、責任の重さを意識した」との声も。継続的な取り組みによって理解が深まり、より高い効果につながることを期待します。



試合後に気づきを伝えている様子

「シームレス」を合言葉に――

東京都選抜少年男子、国スポ

昨年10月、滋賀県で開催された国スポ（国民スポーツ大会）で、2013年東京国体以来、12年ぶり7回目の日本一に輝いた東京都選抜少年男子。太田匡人監督と岩永雄太ヘッドコーチ（26年度国スポ監督）が振り返るのは、個の力を束ねる難しさと、勝ち切るための細部へのこだわり。活動目標に掲げた「シームレス」とは何だったのか。優勝までの道のり、スタッフワーク、そして新体制へ。指揮官2人に聞いた。

2025年度チームスタッフ



上段左から、岩永コーチ、太田監督、都築コーチ
下段左から、北川トレーナー、安永GKコーチ、長山コーチ

監督	太田 匡人 (FC東京)
コーチ	岩永 雄太 (武蔵高等学校中学校)
コーチ	長山 拓郎 (南葛飾高校)
コーチ	都築 泰光 (成城学園高校)
GKコーチ	安本 佳太 (横浜武蔵野FC)
トレーナー	北川 拓見 (医療法人社団向陽会 他)

*所属は、2025年10月時点

優勝の実感と、さらなる基準

――まずは日本一、おめでとうございます。

太田・岩永：ありがとうございます。

――改めて振り返っていかがですか。

太田：2025年に活動した選手たちは、U-15年代から世代別代表に選ばれている選手が多く、周囲からも「個々の力はある」と言われていました。そうした選手たちでタイトルを目指し、優勝することができたのは素直にうれしいです。ただ今振り返ると、試合内容はもっとこだわられたとも思います。「ここで満足しても次につながらない。基準はもっと上に置こう」と大会中も伝えていました。

――課題はどのあたりに。

太田：攻撃の回数とフィニッシュの質です。もっと得点を重ねて勝ち切る試合があっても良かった。接戦が多く、PK戦までもつれる試合もありました。本大会は簡単ではありませんでしたが、それでも「スコアも内容も圧倒して勝ち進む」試合を増やせたら、さらに良かったと思います。

早生まれ世代を束ねた「シームレス」

――早生まれの選手も多い世代だったそうですね。

太田：U-18年代で1年間活動している分、強度は高い。ただ、その選手たちが一つ下の世代（高校1年生）とどう融合するかが大事でした。そこで掲げたのが「シームレス」です。

一つは「攻守一体」。攻撃と守備を分けて考えすぎず、切り替えも含めて一体で戦う。もう一つは「人と人との途切れ目をなくす」。所属チームも学年も違う中で、心の距離を縮めて一致団結することを大切にしました。

――チーム作りで重視したことは。

太田：ピッチ内で会話が飛び交う雰囲気です。そのためにはスタッフが良い関係であることが大事。スタッフがよそよそしいと、その空気は選手に伝わります。僕と岩永さんも最初は距離が

ありましたが、活動を重ねる中でイメージを共有でき、選手との距離も縮まっていったと感じています。

岩永：選手は一人ひとりの個の質が本当に高い。加えて「この1年で伸びた」と感じる選手が多かったです。日常はそれぞれのチームですが、国スポの活動が「きっかけ」となって成長を加速させられた部分はあったと思います。選手がシームレスになるには、まずスタッフがシームレスであるべきだと強く感じました。

*シームレス…継ぎ目がない、縫い目がない

勝つための準備は、ピッチ外から始まる

――関東ブロック大会では前日に2時間ミーティングを行ったと聞きました。

太田：戦術面はもちろん、それ以外の準備も大切にしました。遠征の段取り、試合当日の移動からキックオフまでの流れを滞りなく進める。サッカーの面でも、メンバー選考を含めて監督一人で決め切るのではなく、スタッフの意見を聞いて判断する。試合中もハーフタイムに意見をもらい、私が集約して選手に伝える形でした。

会場とアップ会場が別だったので導線、補食のタイミング、控室の整理整頓、ゴミ袋の準備まで、選手がストレスなく過ごせるよう整えてくれました。

岩永：太田さんの「逆算して徹底する」姿勢は学びが大きかったです。スタッフの意見をよく聞き、全体を見て進める。その姿勢がチームの空気をつくっていました。

本大会では守備に焦点、接戦を越えた自信

――本大会に向けての準備は。

太田：多様な相手と当たる本大会では、課題だった守備にフォーカスしました。映像やトレーニングで戦術理解を落とし込み、中盤からディフェンディングサードの守備を確認しました。

――福島県戦は1-0。

太田：試合の入りは悪くありませんでしたが、もっと決め切れるチャンスがあった。決まらない時間が続くと嫌な雰囲気にもなるの



賞状と守山市のマスコットモーリー

日本一の舞台裏



ハーフタイムで意見を共有し合う

で、本大会の難しさを感じました。

—鹿児島県戦は追い詰められました。

太田:途中で得たPKを外して「まずいな」と思いましたが、最後まで執念があった。川村求選手が同点ゴールを決めてくれました。つながりました。

岩永:失点後も焦らずにやるべきことを続け、最後まで諦めなかった。追いついてPK戦で勝ち進めたのは大きかったです。

太田:内容面でも「自分たちがやりたいサッカー」を一番出せた試合でした。「内容は良かったけど負けたね」は言いたくなかった。勝ち切れた意味は大きいです。

決勝を動かした2発と、積み重ね

—決勝のポイントは。

太田:岩永ヘッドコーチが担当していたセットプレーで2発。ヘッドコーチのおかげです(笑)。

岩永:それまで1点も入っていない焦りもありましたが、トーナメントはセットプレーが重要。限られた時間でも積み重ね、決勝で実を結んだのは良かったです。

太田:拮抗するほどセットプレーが重要。手応えがあったので継続しました。最後に一番大きな結果につながって良かったです。

優勝の喜びと、次の一年へ

—優勝が決まった瞬間は。

太田:純粹にうれしかった。支えてくださった方々への感謝が大きい。前年の国スポやトレセン活動での学びも財産になりました。

岩永:日本一はなかなか経験できない。このスタッフが大好きだったので、このチームで勝ち取れた喜びが大きかったです。

—監督としての苦労は。

太田:選手選考は本当に苦しい。選ばなかった選手にも素質ある子は多く、今後の活躍に期待しています。

岩永:まだ日は浅いですが、監督をやって初めて、所属チームとの調整など、招集が色々な積み重ねで、この活動やチームが成り立っていると分かりました。

—次年度は、岩永さんが監督に就任されていますが。

岩永:正直「一番監督をやりたいくないタイミング」でした(笑)。ただ、連覇に固執しすぎず、活動を通して選手がどれだけ伸びるかを一番大事にしたいです。

太田:プレッシャーはあると思います。でも昨年がすべてではない。新しい顔ぶれで、選手が1日1日成長できる環境を作ってほしい。心から応援しています。

PROFILE

太田匡人(おた まさと)

1982年生まれ。大学卒業後は指導者の道へ進む。FC東京の普及部・U-12育成担当・U-15深川コーチを歴任し、17年~25年はU-15深川監督として選手育成へ力を注いできた。26年からはU-15深川コーチとして活動。指導資格はJFA公認Aジェネラルライセンス。

岩永雄太(いわなが ゆうた)

1986年生まれ。大学卒業後、2010年にJFLのSAGAWA SHIGA FCに入団し2012年まで在籍。2013年浦安サッカークラブ(現プリオベッカ浦安)に移籍し、2021年まで現役選手を続けた。その後教員・指導者の道へ進み、武蔵高等学校・中学校でコーチをはじめ現在は監督として活動。指導資格はJFA公認Aジェネラルライセンス。

本大会選手一覧

背番号	Pos	選手名	所属
1	GK	高橋 恒輝	大成高校/三鷹CF Jrユース
12	GK	小島 望蒼	桐蔭学園高校/東京ヴェルディジュニアユース
2	DF	橋本 凜来	FC東京 U-18 / FC東京 U-15 むさし
3	DF	石村 琢人	FC東京 U-18 / FC東京 U-15 むさし
4	DF	草野 陸	横浜F・マリノスユース/横浜F・マリノスジュニアユース
5	DF	原田 爽潤	東京ヴェルディユース/東京ヴェルディジュニアユース
13	DF	須田 耀介	三菱養和SCユース/三菱養和SC巣鴨ジュニアユース
6	MF	富田 真隆	FC東京 U-18 / FC東京 U-15 深川
7	MF	中野 寛基	FC東京 U-18 / FC東京 U-15 深川
8	MF	舘美 駿	修徳高校/修徳中学校
10	MF	梶山 蓮翔	FC東京 U-18 / FC東京 U-15 むさし
14	MF	伊藤 海成	FC東京 U-18 / FC東京 U-15 深川
15	MF	木下 晴天	東京ヴェルディユース/東京ヴェルディジュニアユース
9	FW	川村 求	川崎フロンターレU-18 / 横河武蔵野FC U-15
11	FW	城 秀人	FC東京 U-18 / FC東京 U-15 むさし
16	FW	伊藤 優	三菱養和SCユース/三菱養和SC巣鴨ジュニアユース

試合結果

2回戦
福島県 0-1 東京都
得点者:24分 城 秀人(東京都)

準々決勝
鹿児島県 1-1 東京都
PK3-5
得点者:2分 愛川 隼斗(鹿児島県) 69分 川村 求(東京都)

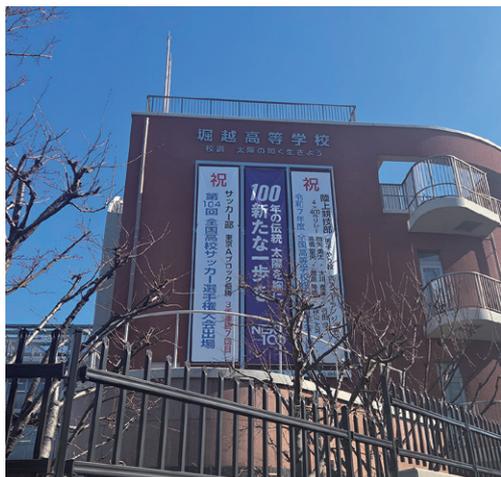
準決勝
石川県 1-3 東京都
得点者:3分 城 秀人(東京都) 9分 川井 湊(石川県)
17分 川村 求(東京都) 52分 オウンゴール(東京都)

決勝
東京都 2-1 静岡県
得点者:18分 橋本 凜来(東京都) 29分 梶山 蓮翔(東京都)
70+4分 小枝 翔太郎(静岡県)



考える力を武器にチームと共に歩んだ3年間

堀越高校サッカー一部三鴨奏太キャプテンインタビュー



堀越高校の10番として前線をけん引し、全国高校サッカー選手権で得点王にも輝いた三鴨奏太選手。怪我による離脱、ポジション変更、そしてキャプテンとしての葛藤。その一つひとつを乗り越えながら、仲間を生かす視点と「考えてプレーする」姿勢を磨いてきた。大学進学を控えた今、成長の軌跡と次なる目標、そして未来の選手たちへのメッセージを聞いた。取材日：2月9日（月）

「最後のチャンス」でつかんだ栄冠

—サッカーを始めたきっかけを教えてください。

幼稚園までは特にスポーツはしておらず、電車が好きな子どもでした。家の近くの区立総合スポーツセンターで活動していたクラブに、友だちに誘われて参加したのがきっかけです。小学校に上がるタイミングで「続けるなら試合ができたほうがいい」と言われ、FC栗島オーバスワン（現FCオーバスワン）に入団。小学1年生から中学3年生まで在籍しました。

2013年、ザックジャパンがオランダやベルギーと対戦した欧州遠征をテレビで見て、日本代表が戦う姿がとても格好よく、「ここを目指したい」と思うようになりました。ロッペンやファン・ペルシをきっかけに、メッシのプレーに憧れ、サッカーで上を目指したいと強く思ったのは、この頃からです。

—堀越高校2年時には全国高校サッカー選手権で得点王、優秀選手に選ばれました。

2年生の春に両足を捻挫し、約1か月プレーができませんでした。インターハイでは「点は取るけれど勝てない」試合が続き、不完全燃焼のまま夏が終わりました。当時はセンターフォワードでしたが、夏以降にトップ下へポジションを変えてから、自分の能力や持ち味を出せる感覚がありました。

プロの練習参加も「2年で活躍しないと呼ばれない」という思いがあり、選手権は自分にとって最後のチャンスだと考えて臨みました。得点王と優秀選手に選んでいただきましたが、ぎりぎりの試合も多く、3年生に助けられた大会だったと思います。その後、プロの練習参加や選抜活動を通じて、実力の足りない部分が見えました。

—3年生ではキャプテンを務めました。ポトムアップを提唱する堀越のキャプテンは練習メニューの作成やメンバー選考など、重責もあったと思います。

人生で一番苦しい1年でした。自分の成長や進路のこともあり、チームのことも考えなければならず、常に葛藤がありました。個人の課題に100%集中したい気持ちはあるけれど、チームのことも考えなければいけない。どちらかに振り切れず、そのバランスを取るのが本当に難しかったです。

9月には監督へ「辞めたい」と伝えたこともあります。ただ、監督と長く話し、家族にも心配をかけたことで、「1年間やると決めたなら、自分のプレーを消してでもこのチームを勝たせる」と気持ちを切り替えました。そこからは、自分よりもチームを優先する意識になりました。

チームメイトの個性を引き出す喜びと楽しさを発見

—3度目の全国大会はいかがでしたか。

率直に楽しかったです。自分が求めていた楽しさとは少し違いましたが、周りの選手の個性や良さが見えてくる中で、「みんなが楽しくプレーしてくれたらそれでいい」と思えるようになって迎えた大会でした。

都大会でも、全員が躍動してタイトルを獲得できました。全国初戦では周りに点を取らせることもでき、自分も得点できました。出したい選手も起用でき、後輩にも出場機会を与えられました。この大会は、この代だけでなく、来年、再来年以降の堀越にとっても大切な大会だったと思います。

鹿島学園戦の前は、体も頭も限界に近い状態でしたが、キャプテンとしてできることはやった感覚があります。結果は敗れましたが、悔いはなく、やり切ったという思いがあります。

「考える力」を武器に

—今後の目標は。

まずは大学で結果を残し、年代別日本代表に入りたいです。それがプロへの近道だと思っています。1回選ばれて終わりではなく、選ばれ続けること、結果を出し続けることが大事だと考えています。

最終的には日本を代表する選手になりたいですし、活躍するだけでなく、活躍し続ける選手になりたいです。

—東京の小・中・高校生へメッセージをお願いします。

難しいかもしれませんが、「考えてサッカーをしてほしい」と思っています。与えられた環境でただプレーするのではなく、自分で考え、自分なりの答えを持つこと。

人のまねをするのも大事ですが、そのままではなく、自分に置き換えて考えることが大切だと思います。受け身ではなく、自分からアクションを起こせる選手になってほしいです。

PROFILE

三鴨奏太（みかも そうた）



2007年生まれ。東京都出身。FCオーバスワンU-15から堀越高校へ進学。第103回全国高校サッカー選手権で得点王に輝き、第104回同大会の優秀選手にも選出された。2025年にはU-17日本高校選抜候補にも名を連ねた。

西が丘の天然芝で育む、U-6 世代の学びと成長

いくせいカップ

第20回東京都キッズ (U-6) サッカー大会



主催:(公財) 東京都サッカー協会

特別協賛:全国地域育整協会

日時:2026年2月15日(日)

会場:味の素フィールド西が丘

いくせいカップ第20回東京都キッズ(U-6)サッカー大会が2月15日に味の素フィールド西が丘で開催された。午前午後の部で、総勢47チームが参加して、天然芝の上でサッカーを楽しんだ。

春の陽気の中、天然芝でのびのびプレー

春の陽気の中、プロの公式戦も行われる西が丘の天然芝で、子どもたちがボールを追いかけながらサッカーを楽しんだ。大会は午前(6人制)・午後(8人制)の二部制で開催。午前部は27チーム(254人)、午後部は20チーム(227人)が参加し、総当たり戦を行った。



平野正義キッズ委員長

平野キッズ委員長は「西が丘の天然芝で思い切り体を動かせる場をつくることは大切です。サッカーはチームで取り組む競技なので、協力して仲間と目標を達成する経験は、これから小学校に進学する子どもたちにとって大きな学びになります」と話し、大会の意義を語った。



また、この大会の特別協賛社である全国地域育整協会の安川代表理事は「この年代は、競技として本格化する前の時期ですが、イベントに参加することで、同年代との交流や、普段接する機会の少ない大人とのコミュニケーションが生まれます。そうした刺激は発育にも良い影響があります」と、経験の場としての価値を強調した。

さらに安川代表理事は、成長期に増える怪我やメンタル面の課題にも触れ、「栄養面だけでなく、一人で食事をする子が多い点も気になります。会話しながら食事や運動をすると自主性や主体性が育ちやすいというデータもあり、チームスポーツのようにコミュニケーションが欠かせない環境は、子どもの成長を支える要素になります」と話した。



全国地域育整協会 安川元也代表理事

「子どもを育てるには、関わる大人の教

と力が必要です。家庭や学校に加えて、習い事やスポーツの場で関わる大人が増えることで、子どもの精神的な安心感につながり、ドロップアウトの防止にもなります。サッカーを通じて、子どもたちが心身ともに健康に育ててほしい」と、今後への思いも語った。

第20回を迎えた大会について平野キッズ委員長は「コロナ禍で加盟団体が減りましたが、ようやく回復してきました。少子化の影響で登録数やU-6の人数は減っていますが、試合内容を見るとサッカーになっているチームが増え、左足で見事にシュートを決める子もいるなど、レベルは上がっています」と振り返った。



COMMENT

FC エスブランコ 松田教正コーチ

「毎年、年長の園児の集大成みたいな感じの大会になっていて、良い環境でサッカーが出来るので、これが励みになっていて嬉しい限りです。私も10年前からこの大会にずっと出ていて、10年経っても子供たちは変わらないですし、逆に10年後、活躍している選手も出てきていて、これをきっかけにしてサッカーを続けている子供たちも多いです」。



全国地域育整協会って
どんな団体?



TOPICS

9月13日(土)
2025年度第49回 総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント

優勝・東洋大学

決勝は、関東第2代表の東洋大学と関西第6代表の関西学院大学がキープアンドエースタジアムみやぎで対決。雨中の拮抗は0-0で終盤へ。83分、鍋島の前線に目掛けたロングパスがワンハンドしてゴールネットを揺らす。ゴールで東洋大が1-0で初優勝。昨年インカレに続く全国大会連覇を達成。天皇杯での経験と粘り強さが、接戦をもにける力となった。

9月21日(日)

JFA
第20回全日本ビーチサッカー大会

優勝・東京ヴェルディBS

決勝は3大会連続の東京ヴェルディBS対レヴェエ横浜の対戦となった。試合は延長でも決着つかずPKへ。東京VがGK2人で計2本を止め、最後は大場が決めて4-2。通算6回目の優勝となり、前回決勝の雪辱も果たし、堂々日本一となった。

11月17日(月)

JFA
第13回全日本O-40サッカー大会

優勝・エリース東京シニア40

決勝は雨中両者が積極的に攻め合う中、29分に齋藤の意表を突くロングシュートで先制。守備陣も体を張り、45分に石川のクロスを清岡が頭で決めて追加点。2-0でエリース東京がO-40日本一を奪還し、2年ぶり2度目の優勝を果した。

1月10日(土)

JFA
第29回全日本U-18女子サッカー選手権大会

優勝・日テレ・東京ヴェルディメニーナ

決勝は連覇を狙う日テレ・東京ヴェルディメニーナとマイナビ仙台レディスユースの対戦となった。試合は開始直後、式田のクロスのごぼれを伊藤が押し込み先制。27分伊藤、29分式田、32分青木と畳みかけ前半4-0。後半は西尾、松岡が追加点。6-1でメニーナが大会連覇。フェアプレー賞も獲得した。



世界での経験を次世代へつなぐ 山本真理フットサル国際審判員 インタビュー

中学時代、顧問の勧めで審判資格を取ったことが、笛を手にする第一歩になり、大学での経験や先輩国際審判員との出会いを経て、サッカーとフットサルの両方で経験を重ねた。選手も観客も納得できるジャッジを目指しながら、培った経験を次の世代につなげようとしている。第1回 FIFA フットサル女子ワールドカップの審判員を務めた、山本真理さんに話を聞いた。

顧問の一言が原点に

—レフェリーを志したきっかけを教えてください。

中学生の時にサッカー部の顧問の先生から「ルールも勉強した方がいい」と勧められたのがきっかけです。友達と一緒に4級審判員を取得し、紅白戦で笛を吹く中で興味が強くなりました。高校2年生で3級も取得しましたが、当時は選手としてプレーも続けていました。本格的に審判活動を始めたのは大学生からで、東京都サッカー協会の派遣を受けて現場に出るようになりました。

—本格的に審判をやっていたころと思った理由は。

東京女子体育大学に進み、全国から選手が集まる環境で、なかなかトップのAチームに上がれない期間があった中、審判活動にも力を入れようと思ったのが一つです。もう一つは東京都所属で、日本で初めて国際審判員になった吉澤久恵さんの存在です。私も含め、若い審判員を審判活動へ熱心に誘っていただき、一緒に活動する中で「もっとうまくになりたい」と思うようになりました。失敗もありますが、そのたびに「次はもっと良く」と積み重ねてきました。

—フットサル審判はいつからですか。

2011年12月にサッカー1級を取得し、日本女子フットサルリーグ創設に伴い2014年に声をかけていただきました。スライド受験でフットサル1級を取得し、2016年のプレ大会から参加しています。フットサルは判断のスピードが速く、2手3手先を考える必要があり、非常に鍛えられました。

「納得できる」ジャッジを目指して

—レフェリーとして大切にしていることは。

目の前の試合を全力でやることです。しっかり準備をして、選手も観客も「納得できる」ジャッジを目指しています。観客の方も見て楽しい、見に来て良かったと思えるような、チームとしても選手が力を出し切れる環境を作りたいと考えています。試合後に、「勝敗に関わらず「ありがとうございました」と声をかけてもらえると、少しでも役割を果たせたかなと感じます。

—試合のない日はどのような準備を。

ランニングや筋力トレーニングを行い、年に数回あるフィットネステストに備えています。スプリントやインターバル走が中心



トレーニングと仕事の前にインタビュー



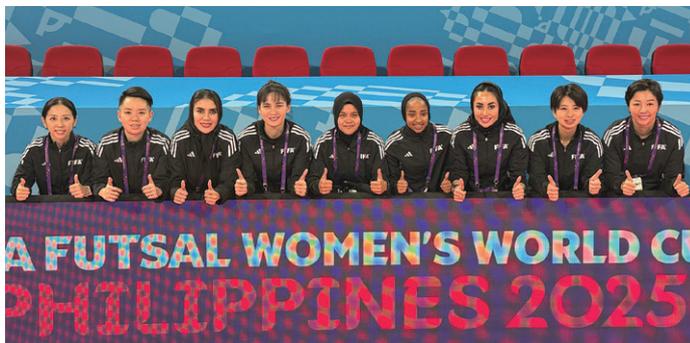
試合中レッドカード提示

で、Fリーグも担当しているため男子基準をクリアしなければならず、そこは苦勞しています。食事や睡眠にも気を配り、交代浴などで疲労回復を図っています。暑い地域への遠征前には入浴で汗をかく準備をして、気温差に適応するようにしています。

国際舞台のレベルの高さと得た手応え

—女子ワールドカップに選出されたときの思いは。

目標としてきた大会の一つだったので、本当に嬉しかったです。同時に、これまで支えてくださった家族や仲間、協会の方々への感謝の気持ちが強く込み上げました。審判員は世界から26名（+サポート1名）と限られた人数で、その中に入れたことは光栄でした。



AFCレフェリー集合写真

—実際に笛を吹いてみて。

初戦はアルゼンチン対ポーランドを第2審判として担当しました。ともに南米、ヨーロッパの強豪で、レベルの高い試合でした。これまでFISUワールドチャンピオンシップ（U-23）には参加した経験がありましたが、FIFAが開催する女子フットサルの世界大会は今回開催されること自体が初めて。その中で、今までよりも数段上の女子フットサルで、すべてが上回っているのを肌で感じました。緊張感はありましたが、同時に楽しさもあり、特別な舞台だと実感しましたし、すごく貴重な経験でした。

—海外選手とのコミュニケーションで工夫したことは。

英語はできるのですが、スペイン語圏の選手とのコミュニケーションは工夫して伝えるように心がけていましたし、スペイン語を母国語とする仲間たちに表現を教わりながら対応しました。また、審判指導員の方にキープレーヤーやゴールキーパーの名前を覚えておくコミュニケーションの役に立つとアドバイスをもらい、両ゴールキーパーやキャプテン、気になる選手の名前を覚え、「○○さん、こうしてほしい」と短い言葉で伝えると、ハッとこっちを見て話を聞いてくれる時もあったので、役に立ったかなと思います。

—世界大会を経験して感じたことは。

世界とアジアの差を感じましたし、自分のレフェリングもまだ足りないと感じました。その経験を日本での活動に生かしながら、今回、日本人審判員として参加したのは私と齋藤香菜さん（栃木県所属）だけなので、経験値を若い世代に伝えていきたいと思っています。

レフェリーに求められる資質

—レフェリーに必要な資質は。

チャレンジ精神とやる気、あとはオープンマインドです。FIFAの大会でも、レフェリングだけではなく、自分から仲間に話しかけたり、積極性も評価されているなど感じました。ただ、最初から持っていなくても大丈夫です。私自身も人前で意見を言うのが得意ではありませんでしたが、挑戦する中で少しずつ変わっていきました。語学もできるほど役立つと感じています。

—今後の目標は。

特定の大会というより、与えられた目の前の試合に全力で取り組むこと。そして仲間を増やす活動を続けたいです。ユース年代にもルールを学ぶ機会を広げ、審判という役割の魅力を伝えていきたいと考えています。自分が経験してきたことを次の世代につなぐことも、今の大切な使命だと思っています。

—東京のフットボールファミリーへメッセージをお願いします。

サッカーは一生懸命努力することや仲間たちと協力することなど、いろんなことが勉強できるスポーツです。大変なこともありますが、長く関わることで人生を豊かにしてくれるものだと思います。審判という立場からも、皆さんの挑戦を応援しています。いつかピッチで会えたら嬉しいです。



コイントス前ラインナップ

PROFILE

山本 真理 (やまもと まり)

1983年生まれ。小学生、共立女子第二中学校・高校、東京女子体育大学でプレー。社会人時代は東京都女子サッカーリーグのチームで20代半ばまでプレーを続けた。中学3年生でサッカー4級審判員、高校2年生で3級の資格を取得。大学2年生の時に2級審判員資格を取得。現在はサッカー1級審判員、フットサル1級審判員の資格を保有し、2018年にフットサル国際審判員として登録。AFC女子フットサル選手権タイ2018で国際試合に初アポイント、2025年5月にはAFC女子フットサルアジアカップ中国、2025年11月には第1回FIFAフットサル女子ワールドカップの審判員を務めた。



東京都所属のサッカー・フットサル（インストラクター含む）審判員は、2025年度約34,000名が登録しており、そのうち女性は約2,000名です。その中で、サッカー1級は26名（内女性は6名）、フットサル1級は10名（内女性は4名）です。WEリーグも始まり、女性プレーヤーも増えている中、審判員を目指す女性はまだまだ少ないのが現状です。

審判活動に、もっともっと興味を持ってもらうため、その楽しさを感じてもらうため、東京都サッカー協会では、「初心者のためのサポートプログラム／女子審判員育成トレセン」を実施しています。

《初心者のためのサポートプログラム／女子審判員育成トレセン》

審判初心者を対象とした内容で、サッカーのルールについて学んでみたい方、審判仲間を増やしたい方、新しく何かを始めてみたいと思っている方を対象としている女性のための審判トレセンです。

山本真理さんを中心とした第一線で活躍している女性審判員たちが指導します。

対象 東京都所属サッカー3級、サッカー4級女性審判員
年齢・経験問わず、どなたでもご参加いただけます。

内容 実技（駒沢補助競技場等）及びオンライン座学

2026年度も開催予定です。詳細は、4月以降、Kickoffサイトで検索してください。



オフサイド判定の練習の様子



2月26日終了後の集合写真



JFA 第12回 全日本 U-18 フットサル選手権大会 大会史上初の3連覇達成! フウガドルすみだファルコンズ 行木詩心優選手インタビュー

JFA 第12回全日本 U-18 フットサル選手権大会でフウガドルすみだファルコンズが大会史上初となる3連覇に輝いた。決勝点を決めるなど勝利の立役者となったのが、墨田区で生まれ育ち、ジュニア年代からフウガドルすみだで力を磨いてきた行木詩心優選手だ。大会を戦い抜いた実感、そしてクラブへの思いを聞いた。



チーム集合写真

3連覇を目指して戦ってきた

—3連覇達成、おめでとうございます。率直な気持ちを教えてください。

ありがとうございます。中学生の時も(U-15選手権で)全国優勝を経験していますが、高校生になってからは「3連覇」を目標に戦ってきました。達成できた瞬間は、本当に嬉しかったです。

—大会を振り返ると。

素直に言うと「楽しかった」です。チームメイトとぶつかり合うこともありました。勝つために要求し合う。それを繰り返す中で、チームが少しずつ成長して、高め合えていったと感じています。決勝当日も、みんなのテンションが高くて、一番声が出ていたと思います。

—大会前にトップチームの2種登録選手として登録されました。プレッシャーは?

「下手なプレーはできない」と考えてしまって、プレッシャーはめちゃくちゃありました(苦笑)。もちろん、うまくいかない場面もありましたが、試合に没頭してしまえば、いつの間にか忘れていました。とにかく「集中すること」だけを考えて臨みました。

—大会中、相手からかなり警戒されていました。

分析されている感覚はありました。自分はカットインが得意なんですけど、カバーを付けられったり、最初からマンマークのように来られたりして、苦戦した場面もあります。ただ、僕にマークが集まれば周りの選手がフリー。だからこそ、周りを生かすことを意識しました。

—決勝では、行木選手の得点が決勝点になりました。

2-0から同点にされても、僕たちは負ける気がしませんでした。相手は決勝進出が初めてだったこともあって、緊張しているのが伝わってきましたし、自分たちは「絶対に勝てる」と信じてプレーしていました。

3点目は……「自分、持っているな」と思いました(笑)。キックインでファーポスト横にポジションを取っていて、相手が触ったこぼれ球を押し込んだ形です。興奮してははっきり覚えていないんですが、試合後のロッカールームで優勝トロフィーを掲げて叫んでいた記憶はあります(笑)。



決勝点を決めた直後

—連覇が自信につながっていますか。

はい。3連覇そのものもそうですし、大きな舞台で戦う経験が自信になっています。小倉勇監督から、この3年間ずっと「負けてはいけないこと」と「王者の振る舞い」について言われてきたので、意識していました。

—後輩たちにとっても、大きなお手本になっているのでは。

お手本になれていたら嬉しいです。自分が高校2年生だった頃より、後輩たちは努力していると思いますし、来年に向けてすごく頑張っている姿を見えています。

このクラブは「自分の全てが詰まっている」

—フットサルを始めたきっかけは?

4歳上の兄のサッカー部の後輩に、すごく上手い選手がいて、その人がフウガドルすみだウイングス(U-15)でプレーしていたことがきっかけです。プレーに魅力を感じて、小学5年生で始めました。

最初は自分が一番上手いと思っていたんですが、入ってみたら自分よりレベルの高い子がたくさんいて衝撃でした。それが悔しくて、時間があれば毎日ボールを蹴って、スクールが終わってからもフウガドルすみだ

エッグス(U-12)の練習に通うような生活を続けました。あの積み重ねが追いつくきっかけになったと思います。

—現在はトップチームの試合や練習にも参加しています。強度には慣れましたか。

合流当初は、強度もスピードもまったく追いつけなくて、判断や知識の部分も違って、「こんなに上のレベルの選手がいるんだ」と感じました。でも、徐々に慣れてきて、今は逆に「自分が主力にならなければ」という気持ちが強くなっています。

—ホームタウン出身で育成年代から育ってきたこのクラブは、どんな存在ですか。

ここまで自分を育ててくれたクラブです。自分を作ってくれたクラブでもあります。練習場所のすみだフットサルアリーナから、自転車で10分ほどのところに実家があって、本当に地元のクラブ。自分の全てが詰まっているというか、第二の親のような存在です。

チームの主力となって活躍をして、 海外に渡りスペインで活躍するのが夢

—2025年6月1日、F1リーグでデビュー(先発出場)しました。

会場に着いて、ホワイトボードに自分の背番号が書かれていた時は「まさか」と驚きました。泣きそうなくらい嬉しくて、試合中に泣いてしまいました(テレ笑)。小さい頃から憧れていた場所でプレーできるのは本当に幸せです。両親をはじめ、支えてくれたコーチ、チームメイトに感謝しています。

—6月15日には初得点も記録しました。

決めた直後は実感がなくて、後からじわじわ嬉しくなりました(笑)。

—現時点の課題と手応えを教えてください。

課題はフィジカルです。強さがまだ足りないのと、右足のキック精度を高めたいです。手応えとしては、ワンツーなど、2人組の関係性で崩す部分は通用していると思います。気持ち的にも、試合に出るのが楽しくてワクワクしています。

—2026年1月、日本代表(アジアカップに向けた国内合宿)のサポートメンバーにも選出されました。

パスもシュートもレベルが高くて、食い込んでいくには厚い壁があると感じました。合宿から戻ってからは、それがモチベーションになって、筋トレや、ワンプレーへのこだわり、強さ、丁寧さを追求しています。

—最後に、応援して下さる方々へメッセージをお願いします。

1日でも早くこのチームで主力になって、F1リーグでも名の知れた選手になり、スペインで活躍するのが夢です。目標に向かって努力し続ければ、必ず達成できると信じています。これからも頑張ります。

PROFILE

行木 詩心優 (なめき たみゆ)



2008年1月27日生。170cm/61kg。東京都出身。フウガドルすみだエッグス(U-12)→フウガドルすみだウイングス(U-15)→フウガドルすみだファルコンズ(U-18)。2025年5月29日にトップチームへ2種登録。同年6月1日、F1リーグ第1節(立川アスレティックFC戦)でF1リーグ初出場。6月15日、第3節(名古屋オーシャンズ戦)で初得点。2026年1月、フットサル日本代表の合宿サポートメンバーに選出。

第23回アクサブレイブカップブラインドサッカー日本選手権 品川CCパペレシアルはあと一步届かず、準優勝に

第23回アクサブレイブカップブラインドサッカー日本選手権の決勝が町田市立総合体育館で1月31日に行われ、品川CCパペレシアルはA-pfeile広島BFCに0-1で惜敗し、準優勝となった。町田市在住、在学、在勤者は無料招待され、リレーションセンターの設置（会場内でのサポートセンター）、VRでのブラインドサッカー体験コーナー、チアダンスによるパフォーマンスも披露されて会場は熱気に包まれた。

品川CCは決勝で0-1で敗れて準優勝

第23回アクサブレイブカップブラインドサッカー日本選手権は、10月に葛飾・成田会場で予選ラウンドが行われ、1月17、18日に浜松会場で準決勝ラウンドを実施。品川CCパペレシアルは準々決勝で埼玉T.Wingsに勝利すると、準決勝ではfree bird mejirodaiを1-0で下し、決勝へと駒を進めた。



音が出るボールを使用してプレーするブラインドサッカー

迎えた1月31日の決勝。品川CCは第1ピリオドから日本代表主将の川村伶が中盤からドリブルで持ち出し、攻撃の起点となってチャンスを作った。14分にはCKから森田翼主将がシュートを放ち、直後にも川村が長い距離を運んでミドルシュートを狙うなど、攻勢を強めた。

第2ピリオドも主導権を握り、4分にはGKのスローインを受けた川村がカットインからゴールを狙う。しかし、わずかに足に合わず決定機を逃すと、逆にA-pfeile広島BFCにFKのリスタートから先制点を許した。

追いかける展開となった品川CCは11分にも川村が決定的なシュートを放ち、終盤にも川村や森田がゴールへ迫ったが、相手GKの好守にも阻

まれ、ネットを揺らせない。終盤には相手のバックパスのファールでFKを獲得し、同点に追いつく好機を迎えたものの決め切れず、0-1で試合終了。悲願の日本一には、あと一步届かなかった。

試合後、小島雄登監督は「ラスト5分で、0-1だったため、追いつきたいという思いがあったが、最後のフィニッシュがうまくいかなかったのが敗因」と振り返った。川村も「悔しい。調子が良かった中で、ゴール前で相手4人が迫ってきて、最後こじ開けられず、良い形でシュートを打ち切れなかった。そこが課題」と、次への手応えと課題を口にした。



ボールをキープする川村伶選手と佐々木口ベスト泉選手



決勝で敗れるも準優勝となった品川CCパペレシアル

なお、同日に行われた3位決定戦ではfree bird mejirodaiがコルジャ仙台に4-0で勝利。大会得点王には5得点を挙げた北郷宗大（free bird mejirodai）が輝いた。

アンプティサッカーインターナショナルチャレンジカップー東京2026ー 日本国内で初開催!アンプティサッカーの国際大会が東京で開催

日本で初開催となったアンプティサッカーの国際大会が1月16日（金）～18日（日）に駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場で行われた。世界の強豪が集まりワールドクラスのプレーを披露。選手の挑戦や情熱がピッチいっぱいにあふれていた。



総合3位の日本代表チーム

アンプティサッカーの認知度を高め、 ワールドカップの強化へ

これまでアンプティサッカー日本代表はワールドカップ（W杯）にも出場しており、11月にコスタリカで開催される次回W杯への出場も決定しているが、国際試合を国内で開催するのは今回が初めて。

記念すべき大会は、インドネシア代表（25年アジア5位）、スペイン代表（24年欧州2位）、ポーランド代表（24年欧州3位）に日本代表（25年アジア3位）を加えた4カ国が総当たりで優勝を争った。

日本代表は初戦のインドネシア代表戦に3-0で勝つと、翌日のスペイン代表戦では個の技術とスピードで上回られ1-3で敗戦。勝って大会を締め



ゴールに迫る後藤大輝選手

たい日本代表は最終日にポーランド代表と戦った。相手のパワーに押されるなか、6分、FKのこぼれ球を押し込まれ失点。反撃に出る日本代表は最終ラインから丁寧にビルドアップを図り、サイドを起点にしながら敵陣に攻め込むがフィニッシュまでが遠い。

1-0のまま後半を迎えると立ち上がりピンチを迎えるも守備陣が体を張ってゴールを防ぐ。早い時間帯に追いつきたい日本代表だったが、38分に強烈なFKをねじ込まれると、その4分後にはカウンターから失点。スタンドを埋めた観客の声援に背中を押されゴールを目指すも結果は0-3での敗戦となった。

総合3位の結果に対して尾形行亮監督は「目標は優勝だったが、強豪国相手にどこまでできるのか、それをぶつけられた」とコメント。課題もあったがW杯に向け「今回の経験を頭に入れ、練習から質を上げていきたい」と続けた。

東京都に拠点を置くFC ALVORADAでプレーする高橋良和選手は「東京での国際大会は夢のまた夢だと思っていたので、今大会に賭ける思いは強かった。まだ世界の壁は厚く悔しい思いで一杯ですが、ここで終わりではなくスタートの気持ちで続けていきたい」と前を向くと「ホイッスルも聞こえないほどの大声援の中でプレーできたことは感無量ですし、サッカーを続けてきてよかったなと思いました」と応援への感謝の思いを述べた。

COMMENT

岸秀忠大会実行委員長

悲願でもあった国内での初開催でした。世界的認知度が高い大都市・東京は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーがありますが、アンプティサッカーは認知度がまだ低いです。今大会はW杯への強化につながるものだと感じました。





サッカー LIFE

～サッカーファミリーのサッカーライフを紹介～

たくさんの人に支えられている TOKYO FOOTBALL
どのような人がどのように関わっているのか知ってもらいたい そんな思いから生まれました

サッカーライフ 諸岡良徳さん（武蔵野大学サッカー部監督）

お仕事 Q&A

今、チームが所属しているのは？

現在は関東大学サッカーリーグ戦東京・神奈川3部（都学連所属）に所属しています。

チームの特長は？

部員は30名ほどで、上・下級生仲良くやっています。今は発展途上で、それを少しずつ強化していくことがテーマ。少しずつ成長させ組織にすることが僕の仕事です。指揮を執り4年目となりますが、まづまづというところです。



週どのくらいのペースで指導を？

仕事が休みの土曜日、日曜日になりますが、リーグ戦が始まれば木曜日の夜にも指導にいきます。週3ぐらいです。

指導者になったきっかけは？

高校時代に両膝をケガしたことで高3の1年間は試合に出られませんでした。ケガの影響から大学サッカー部に入学する自信が持てなかったところ、当時の（高校の）先生に「コーチをやってみなよ」と誘われたことで、大学3年間、出身高校のコーチをしたことがきっかけです。指導者として27年目です。



武蔵野大学の監督になった経緯は？

自宅近くで、指導できるチームを探していました。綺麗な人工芝グラウンドもあって、試合も見せてもらいましたが、技術のある選手もいたので面白いかなと。当時はコロナ禍で充分活動ができず、東京都の社会人リーグに所属していたのですが、翌年には大学リーグに復帰したいという話もあった中で、大学リーグは指導者が必要になるといふことで、ちょうどお互いのタイミングが重なったと思っています。

小中学生の指導とも違う、大学生の指導のポイントは？

強豪チームと違う部分もあると思いますが、方向性の統一、一体感を出して行くことに注意を払っています。モチベーションをアップさせることが一番難しい。一方、色々な役割や役割を与えて組織運営をさせる経験をさせています。社会に出た時に少しでも役立つような経験をさせたいと思っています。

印象に残っている出来事は？

昨年、前半戦はリーグ2位に付けていたのですが、後半戦に失速。最終的に4位で終わり、昇格を逃してしまった悔しさが選手たちにはあります。特に最終戦は下位チームに逆転負けを条件次第では昇格につながる3位になるチャンスを逃してしまいました。僕自身も悔しくて指導者をそのまま続けて良いのかと悩みましたが、ここで逃げたらダメだと思い直しました。試合を重ねるごとにチームとしても成長しています。これまで降格を経験し、昇格のチャンスを逃す悔しい経験をしてきましたが、選手たちには“今年こそ”という気持ちが強くなっています。

心に刺さった指導法や言葉は？

チームに提示しているのは元日本代表監督である岡田武史さんの「勝利の女神は細部に宿る」という言葉です。

他のスタッフとの連携について。

JFA 夢フィールドで2年前に行われたフィジカルフィットネスの講習会で一緒だった方を誘って、ここに来てもらいました。1人では目が行き届かないので非常に助かっています。週末にしか会えませんがメール等でしっかりコミュニケーションをとっています。

理想とする監督像は？

誰かというものは無いのですが、自分なりの色が出せれば良いと思っています。選手には「今までは、優しすぎたから今年からピシッしくよ」とは言ったんですけど（笑）。フラットな立場でいながらも、選手の成長につなげられるようにしていきたいと思っています。



今シーズンの目標や意気込みを

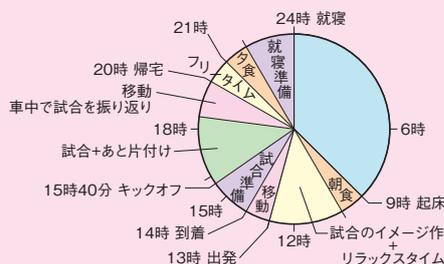
3部優勝をして2部に昇格する、絶対に達成したいと思っています。

プライベート Q&A

サッカーやフットサルをプレーした経験はありますか？

小学校5年生の時からサッカーを始めて、7年ほど前までは三鷹市のシニアリーグでプレーをしていました。

試合日のスケジュールについて。



休日の過ごし方は？

車で遠出をして温泉に入ったり、あとは半年に1回ぐらいですがゴルフの観戦に行きますし、日程があれば地元なのでFC東京の試合を観に行きますね。



英マンチェスター・エティハドスタジアムの監督席で

趣味は？

半年に1回のゴルフ観戦ぐらいです（笑）。

ご自身にとってサッカーとは。

自分を活性化させてくれる、元気にしてくれる存在です。生きがいのひとつであり、ライフワークでもあります。今、こうして指導させてもらっている中で思うのは、もっとチームを良くしたいし、強くしたい。もっと勉強したいと思うからこそ自分自身に向上意欲が湧いてくる。そういう意味でも、自分にとっては刺激であり、喜びでもあります。



（写真は、JFA スポーツマネジャーズカレッジ受講中の様子）

メッセージ

高校サッカーも人気はありますが、大学サッカーも楽しいということ、ぜひ皆さんに知っていただきたいと思っています。大人の入り口となる18歳以降が一番伸びる時期。その意味でも貴重なカテゴリーです。頑張っている学生はたくさんいるので、ぜひ注目をして応援に来ていただけたらと強く思っています。



From the Association

2025年度東京都サッカー協会指導者研修会報告【指導者研修 in 欧州(スペイン)2026春】

主催：(公財)東京都サッカー協会 技術委員会（指導部会）

欧州サッカートップ国の1つであるスペインのサッカー全般を学び、TOKYO Footballの今後の飛躍に繋げることを目的として、2026年2月14日(土)～21日(土)の期間にスペイン・マドリードで指導者研修会が行われた。参加者は一般公募で申込みをした3名、そして東京都サッカー協会技術委員会のメンバー2名と事務局員1名の計6名で、現地の様々な環境や世代のサッカーやフットサル、食事や習慣・歴史などの文化の部分について体験・体感し、スペインの特徴や日本との違いを学ぶ貴重な機会となった。

①一般公募の参加資格は以下の通り

- ① 2025年4月1日現在、満19歳以上の指導者もしくは、指導者を志している方。
※定員を超える申し込みがあった場合、東京都サッカー協会加盟登録チームで指導している方を優先
※指導者資格の有無、指導チーム、性別や年齢などは問わず、受け付け。
- ② 全日程に参加できる方。



試合をしている選手の親族が別のコートでサッカーを楽しむ様子

②主な訪問先・研修内容は以下の通り

日程	内容	
14日(土)	ユース1部リーグ【JUVENIL (フベニール)】 バジェカスCF (アルゼンチンFA公式アカデミー認定クラブ) スペインリーグ1部	試合観戦 ラージョ・バジェカーノ U19 vs レガネスU19 練習見学 試合観戦 レアル・マドリード vs レアル・ソシエダ
15日(日)	スペインリーグ4部 スペインリーグ5部 スペイン女子リーグ1部	試合観戦 ラージョ・バジェカーノ U23 vs サンセバスチャン・デ・ロス・レジエス 試合観戦 レガネスB (U23) vs ガラパガール 試合観戦 アトレティコ・マドリード vs マドリードCFF
16日(月)	スペイン女子リーグ1部 フットサルスペインリーグ1部	マドリードCFF 練習見学&監督、分析官とのミーティング マンサナーレスFS 監督とのミーティング
17日(火)	スペインリーグ1部 スペイン女子リーグ1部	ラージョ・バジェカーノ 練習見学 マドリードCFF クラブ研修(育成責任者&メソッド責任者)&練習見学
18日(水)	スペインリーグ1部 UEFA女子チャンピオンズリーグ	レアル・マドリード クラブ施設見学 レアル・マドリード (ユースA=U19) 練習見学 昇格見極めテスト (ユースC=U17所属の3名) 試合観戦 レアル・マドリード vs バリFC
19日(木)	スペインリーグ4部 スペインリーグ1部	ラージョ・マハダオンダ 練習見学 ラージョ・バジェカーノ 各年代練習見学 ※U19,18,16,15,14,13,12の他、スクールなど ラージョ・バジェカーノ クラブ研修(育成責任者兼メソッド責任者)
20日(金)	フットサルスペイン1部リーグ	モビスターインテルFS 練習見学&クラブ研修(スポーツダイレクター)
21日(土)	U12リーグ【ALEVIN (アレビン)】 U14リーグ【INFANTIL (インファンティル)】 フットサルスペイン1部リーグ	試合観戦 ラージョ・バジェカーノ vs アトレティコ・マドリード 試合観戦 レアル・マドリード vs アトレティコ・マドリード 試合観戦 マンサナーレスFS vs バルセロナ



ユース1部リーグ【JUVENIL (フベニール)】試合観戦
ラージョ・バジェカーノU19 vs レガネスU19



スペインリーグ1部 試合観戦
レアル・マドリードvsレアル・ソシエダ



スペイン女子リーグ1部 試合観戦
アトレティコ・マドリード vs マドリードCFF会場



スペインリーグ4部
ラージョ・マハダオンダ 練習見学

天皇杯 JFA 第106回全日本サッカー選手権大会 東京都代表決定戦

東京都サッカートーナメント

TOKYO FOOTBALL TOURNAMENT 2026

特別協賛：(株)プロパティユース

協会に関する詳細は (公財)東京都サッカー協会 <https://www.tokyofa.or.jp>

準決勝 4.26

会場
味の素フィールド西が丘

第1試合 11:30

第2試合 14:00

決勝 5.9

会場
味の素フィールド西が丘

11:30

14:00



国内外での躍進、25年の歩み、次世代への継承

シニアの東京代表は、2025年度も国内外で素晴らしい成果をあげました。

10月に上海で開催された「東アジアシニアサッカー大会」では、各年代の東京代表が上海、ソウルの強豪と互角以上に戦い、Over50では四十雀クラブ東京50が3戦全勝で優勝を果たしました。同時に、日本のシニアサッカーの在り方そのものを発信する貴重な機会となりました。日本ほどシニア世代がグラスルーツとして地域に根差し、「日常のサッカー文化」として広がりをもって活動している国は多くありません。その裾野の広さこそが日本の誇るべき強みであり、東京代表はこの大会を通じて、その価値を示してくれました。

11月に秋田市で開催された「JFA全日本O-40サッカー大会」では、エリス東京シニア40が大会を通じてフェアプレーを貫き、ノーカードでの全国制覇を成し遂げました。全員が「フォア・ザ・チーム」を体現し、チーム一丸となって戦った姿勢とともに、多くの関係者から称賛の声が寄せられました。

また、連盟として設立25周年を迎え、その歩みと想いを記録する記念誌を制作いたしました。創設期から現在に至る歴史や関係者の声をまとめ、次世代へと継承する取り組みです。

あわせて、「安全 (SAFE) ・公正 (FAIR) ・敬意 (RESPECT)」を軸とした行動指針を策定しました。「怪我をしない、させない」といった安全配慮、フェアプレーの推進、そして関わる全ての人への敬意を行動指針として示し、連盟として各チームへの周知徹底を進めています。

私たちは、Over40からOver80まで、最年長カテゴリーを担う組織として、真剣さと安全性を両立した環境づくりを進め、次の二つを目指します。

- ・すべての選手が「生涯現役」として、怪我なく、できるだけ長くサッカーを楽しむ続けること。
- ・私たちのプレーする姿が、若手や子どもたちにとっての模範となるよう、フェアでリスペクトあふれるサッカーを示すこと。

ピッチ内外で模範となる振る舞いを積み重ねながら、東京都シニアサッカー連盟はこれからも、生涯にわたるシニアサッカーの発展に取り組んでまいります。

オフィシャルサイト

<https://tokyofa-senior.com/>



東京都シニア サッカー連盟

委員長

末永 孝彦



全日本O-40優勝 エリス東京シニア40



東アジア大会O-50優勝 四十雀クラブ東京50

海外親善交流試合の足跡

東京都専門学校サッカー連盟が1984年から実施しております海外親善交流試合は、「国際的視野に立ち、学生に夢を」との考えから韓国親善交流が始まりました。

参加選手は、当連盟加盟校から選抜し東京都専門学校選抜チームとして、現地の大学チームや専門大学チームなどと親善試合を行ってきました。

当初は、現地とのコネクションも無く、韓国大使館や大韓体育会から紹介を頂き、海外交流ならではのトラブルなどありながらも、現地の方々の協力で30年以上の交流実績を重ねてまいりました。

そのような活動実績から、徐々に加盟校をはじめ企業などにも活動の認識が広まり、1992年には、当時の日本エアシステム株式会社 (JAS) の協力で「JASカップ」として当連盟選抜チームの他に韓国の大学チーム・専門大学チーム・高校チームによる大会を実施し、1998年には、親善交流遠征15周年として一度イタリア遠征も行いました。

2017年からは、これまでの交流先である韓国にこだわらず、広くアジアに目を向けてみようということから、2017年からは中華民国足球協会 (台湾) の協力を得て、台北市を中心とした親善交流試合を実施しています。

台湾遠征では、親善交流試合の他に現地小学生を対象とした、東京選抜選手たちによるサッカー教室をおこなっており、参加の子どもたちやその親御さん、指導者からとても喜ばれ、試合とは違った「親善交流」を実感できるシーンにもなっています。

当連盟の年間事業計画として、基幹大会である春季大会、全国大会東京予選大会、会長杯兼秋季大会をはじめとして、この海外親善交流試合についても、選手においては言語の違いや文化・歴史の違いの中で、基幹大会では対戦相手となるチームの選手が選抜チームとして同じユニフォームを着て、同じ目的を持つチームの一員として時間を共有する貴重な経験と捉え、当連盟として重要な事業として認識し、今後もサッカーを通じ「学生に夢を」実感できるように、国際交流を継続してまいります。

オフィシャルサイト

<http://www.tafa.jp/>



東京都専門学校 サッカー連盟

副会長

横山 重明



24年の台湾体育大学と



サッカー教室後の一コマ



サッカー教室参加者と共に

「さらなる発展へ」

1. 味の素スタジアムでの選手権決勝戦

高校サッカー選手権東京都大会の決勝戦を、味の素スタジアムで開催しました。素晴らしいピッチコンディションとプロ仕様のスタジアム環境に、多くのファンや生徒、保護者が詰めかけ、12,000人の観客が熱狂しました。

試合の合間には、チアリーディングによる華やかな演技や、書道パフォーマンスによる力強いメッセージが披露されました。これにより、サッカー関係者だけでなく、文化部や他競技の生徒も巻き込んだ「学校文化の祭典」としての価値を高めています。

またスタジアム内では進路フェアも実施され、試合を観戦しに来た下級生や保護者が、大学進学や将来のキャリアについて相談できる場を設けることで、スポーツと学業の両立を具体的に支援する形となりました。

2. 地区選抜研修大会の進化と「クラブユース」との交流

東京都の競技レベルを底上げするための「地区選抜研修大会」においても、新たな試みが導入されました。従来の高体連加盟校による地区選抜チームに加え、新たに「クラブユース選抜」を1チーム招待しました。計9チームで行われたこの大会は、部活動とクラブチームという異なる背景を持つ選手たちが切磋琢磨する貴重な機会となりました。普段対戦する機会が少ないクラブチームの選手と対峙することで、選手たちは新たな戦術的刺激を受け、東京都全体のレベルアップに繋がっています。

3. 「ユースレフェリー」の育成と自立

上記の大会においては、全ての試合をユースレフェリー（高校生審判）が担当しました。若い審判が主審・副審を全うできる環境を整えたことで、選手としての視点だけでなく、ルールを司る「審判」としての責任感や判断力が養われています。これは、将来的な審判不足の解消や、競技への理解を深めるための大きな一歩と言えます。

4. 世界を見据えた「東京ユース選抜海外遠征」

国内の活動に留まらず、高体連、クラブユースの合同選抜チームはドイツへの海外遠征を予定しています。サッカー強豪国であるドイツのクラブやアカデミーと対戦することで、体格差やスピード、戦術の緻密さを肌で感じる狙いがあります。海外の文化や価値観に触れることは、技術面だけでなく、一人の人間としての国際感覚を養う絶好の機会です。ここで得た経験は、帰国後に各チームへ還元され、東京都全体の大きな財産となることが期待されています。

オフィシャルサイト

<https://tokyosoccer-u18.com/>



東京都高体連 サッカー専門部

委員長
長山 拓郎



高校サッカー選手権大会決勝戦@味の素スタジアム



東京国際ユース選抜

一年を振り返って（大会結果）

当連盟は都内自治体職員のサッカー部で構成しています。

2025年度は東京都庁、東京消防庁をはじめ（公財）日本サッカー協会に登録する21チームが参加し、7月の全国大会、10月の関東大会の都予選会を主な事業として実施しました。

【第51回全国自治体職員サッカー選手権大会東京都予選会】

5月10日から6月7日の日程で実施

準決勝 町田市役所 0-0 PK5-3 東京消防庁
武蔵野市役所 2-1 世田谷区役所

決勝は町田市役所の不戦勝でした。

全国大会は32チームの参加で7月26日から沖縄県で開催されました。

2年連続18回目の出場となった町田市役所は、準々決勝で優勝した藤枝市役所に0-2で敗れました。また、初出場した武蔵野市役所は、1回戦で焼津市役所に2-3で惜しくも敗れました。

【第52回関東自治体職員サッカー選手権大会東京都予選会】

9月6日から10月4日の日程で実施

準決勝 東京都庁 1-0 八王子市役所
町田市役所 1-0 昭島市役所

決勝 町田市役所 2-1 東京都庁

関東大会は12チームの参加で10月25日から前橋市で開催されました。ここ2年の全国大会ベスト8に関東連盟所属のチームが6~7チーム勝ち上がっており、関東大会は各県から原則1チームの出場（東京からは2チーム）となることから勝ち上がるのは大変難しい大会となっています。

3年連続出場となった町田市役所は、決勝戦まで勝ち進みましたが前年度優勝の宇都宮市役所に1-2で敗れ残念ながら準優勝でした。2014年（第42回大会）以来11年振りに出場した東京都庁は、1回戦ひたちなか市役所に2-1で勝ち、準々決勝で優勝した宇都宮市役所に1-1 PK3-4でこちらも残念ながら敗れました。

（公財）東京都サッカー協会発展のため、引き続き他連盟の皆様と協力して活動を続けて参ります。

オフィシャルサイト <https://www.tokyofa.or.jp/category/league/jichitai.html>



東京都自治体職員 サッカー連盟

顧問
伊藤 茂男



関東自治体職員サッカー選手権大会で準優勝の町田市役所サッカー部



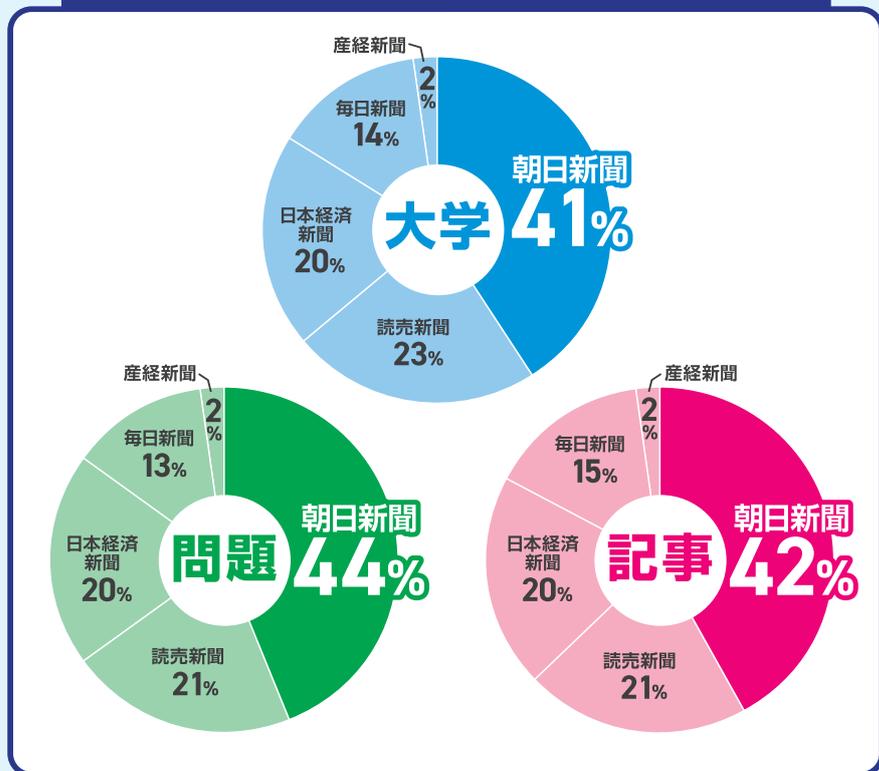
全国自治体職員サッカー選手権大会に初出場の武蔵野市役所サッカー部

朝日新聞は 2025年度も

大学入試出題数

No.1

全国紙の2025年度大学入試出題実績



※大学通信調べ(2025年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(紙面版・デジタル版)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、回答数775。



朝日新聞

ご購入・お試し読み
受付時間 7:00~21:00

0120-33-0843

